

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 6月 4日記入

基本目標	Ⅲ ▼ 躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32610
政策名 (章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当課	土木部 ▼
基本施策名 (節名)	第6節 下水道の整備と管理		土木計画課
施策名	汚水対策の推進	課長名	内田 徹

1 施策の概要・目的

河川などの公共用水域の水質を保全し、生活環境の向上をめざすため、相模川流域下水道終末処理場の増設及び終末処理場の負担を軽減するための中間浄化施設の設置を促進し、市街化調整区域の公共下水道(汚水)整備を推進するほか合流式公共下水道区域の分流式への改善を進めます。

2 施策の現状

平成14年度末現在において、終末処理場(左岸処理場)は第8系列まで完成し、中間浄化施設についても終末処理場(右岸処理場)内にモデル施設が完成し、今後は実証実験を行っていきます。市街化調整区域の公共下水道(汚水)整備は平成14年度から整備に着手し、対象面積約330haのうち約7.9haの整備を完了しました。合流式公共下水道区域の分流式への改善は平成10年度から着手し、分流化に必要な汚水幹線の整備を行っています。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

4,570,896 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

7,420 円/人……人口は、61.6 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 12 番目です。

(4) 施策に要している人員

34.97 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	相模川流域下水道終末処理場整備率 実績日最大処理能力(m ³)÷目標日最大 処理能力(m ³)×100	終末処理場の整備 率により汚水処理能 力増加の達成度を 計ります	859,000 m ³ 単位	0 50 100	48.40%	目標年度 22年度
			1,775,000 m ³ 単位		達成度 48.40%	
指標2	市街化調整区域(汚水)整備率 実績整備面積(ha)÷目標整備面積 (ha)×100	市街化調整区域の 汚水整備率により区 域内の処理達成度 を計ります	8 ha 単位	0 50 100	2.40%	目標年度 20年度
			330 ha 単位		達成度 2.40%	
指標3	合流式公共下水道の分流式への改善に 必要な汚水幹線の整備率 実績整備延長(m)÷目標整備延長 (m)×100【面整備については未着手】	分流式への改善に 必要な汚水幹線の 整備率により準備達 成度を計ります	4,160 m 単位	0 50 100	65%	目標年度 26年度
			6,402 m 単位		達成度 65%	

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

下水道は、快適な市民生活と活気ある経済活動を支える重要な都市基盤施設であり、これまで計画的な整備に努めてきましたが、今後予測される成熟社会に向け、人や環境にやさしい質の高い都市基盤の整備に取り組む必要があります。また、河川流水の減少への対応など、新たな課題への取り組みが求められているため、今後も施策の継続が必要です。

6 有効性…期待される効果があがっているか

公共下水道(汚水)整備を市の最重要施策として整備を進めた結果、平成12年度までに市街化区域のほぼ全域の整備を完了し、平成14年度から市街化調整区域の整備に着手しました。また、相模川流域下水道の管きょ及び終末処理場の整備についても終盤にさしかかっています。こうした取り組みが、相模川をはじめとする河川などの公共用水域の水質保全や生活環境の向上のため、大きな役割を果たしています。

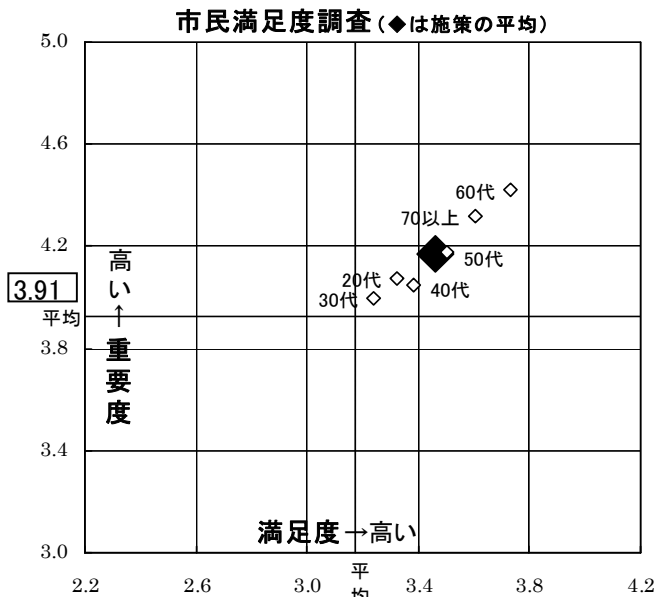
7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

本市は、相模川の水質保全や効率的な運営のため、神奈川県と相模川流域の16市町で運営する相模川流域下水道事業に参画しています。更に、市街化調整区域の公共下水道(汚水)整備についても家屋が建ち並んでいる度合いなどから判断して整備区域を設定し、各工事においては最良の工法の採用やマンホール間隔の見直し、建設発生土の再利用なども図り、効率的な事業運営に努めています。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

- ◆この施策の満足度は、3.462で、調査した51施策の中で3番目です。
- ◆この施策の重要度は、4.168で、調査した51施策の中で12番目です。

◇年齢別にみると、満足度及び重要度ともに60歳代で最も高く、30歳代で最も低くなっています。満足度が高いほど重要度も高くなる傾向がみられます。



市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「○総合計画における位置付け等」参照)

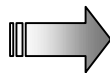
9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

3.17

公共用水域の水質保全には、市街化調整区域の公共下水道(汚水)整備及び合流式公共下水道区域の分流式への早期改善が必要です。また、河川流水の減少など新たな課題への取り組みも必要となっていますので、事業費の確保など課題はありますが、神奈川県や相模川流域市町と連携するとともに、あらゆる視点から事業内容及び事業費の精査に取り組み、創意工夫により施策目標達成のため今後も努力してまいります。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向	
<input type="checkbox"/> 拡充する	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持する	
<input type="checkbox"/> 見直し	



説明及び具体的内容

相模川流域下水道終末処理場の整備については終盤を迎えています。しかし、施策目標を達成するためには、市街化調整区域の公共下水道(汚水)整備及び合流式公共下水道区域の分流式への改善を積極的に推進していく必要があります。このためには、最低限、現在の事業規模を確保する必要があります。

11 2次評価

説明

<input type="checkbox"/> A	
<input type="checkbox"/> B	
<input checked="" type="checkbox"/> C	

引き続き汚水対策、水質維持に努めること。市街化調整区域の整備にあたっては、効果的、効率的な整備を進めるとともに受益と負担の関係を検討すること。

12 外部意見

説明

計画どおりの整備に向けて、事業を実施されたい。

施策名 汚水対策の推進

施策コード 32610

構成事務事業一覧

事務事業名	担当課	評価年度	決算額(千円)	人員(人)	評価の概要									今後の進め方	施策中の優先順位
					総合評価	達成度	必要性	効率性	代替性	満足度	有効性	公平性			
相模川流域下水道維持管理負担金	土木計画課	14	2,469,109	0.10	AA	B	A	A	A	A	A	継続	1		
相模川流域下水道建設負担金	土木計画課	14	720,066	0.07	AA	A	A	A	A	A	A	継続	1		
公共下水道使用料賦課徴収経費	下水道料金室	14	230,660	18.00	AA	A	A	A	A	A	A	継続	2		
受益者負担金賦課徴収経費	下水道料金室	15	24,645	2.00	AA	A	A	B	継続	A	A	継続	3		
隣接市町下水道施設利用負担金	土木計画課	14	2,078	0.05	AAA	A	A	A	A	A	A	継続	4		
公共下水道整備事業(補助事業)[汚水対策分]	下水道整備課	14	195,645	1.00	AAA	A	A	A	A	A	A	継続	5		
負担金・補償金	下水道整備課	15	108,489	1.00	AAA	A	A	A	継続	A	A	継続	6		
下水道事業審議会経費	土木計画課	14	1,205	0.12	AA	A	A	A	A	A	A	継続	7		
公共下水道 測量設計等委託	下水道整備課	14	97,819	3.20	AAA	A	A	A	A	A	A	継続	8		
公共下水道整備事業 其他整備費[汚水対策分]	下水道整備課	14	174,188	3.40	AAA	A	A	A	A	A	A	継続	9		
公共下水道整備事業 其他整備費(下水道管理)	下水道管理課	15	321,780	2.00	AA	A	A	A	継続	A	A	継続	9		
公共下水道整備事業 其他整備費(南土木事務所)	南土木事務所	14	179,774	4.00	AA	A	A	A	A	B	A	継続	9		
座間中央幹線整備事業負担金	土木計画課	14	45,438	0.03	AAA	A	A	A	A	A	A	完了			

合計 13 事務事業

4,570,896 34.97
千円 人

平成14年度評価: 達成度、必要性、効率性、有効性、代替性、満足度
平成15年度評価: 達成度、必要性、効率性、有効性、公平性